



26:12 第三年目の十分の一を納める年に、あなたの収穫の十分の一を全部納め終わり、これをレビ人、在留異国人、みなしご、やもめに与えて、彼らがあなたの町囲みのうちで食べて満ち足りたとき、

26:13 あなたは、あなたの神、主の前で言わなければならない。「私は聖なるささげ物を、家から取り出し、あなたが私に下された命令のとおり、それをレビ人、在留異国人、みなしご、やもめに与えました。私はあなたの命令にそむかず、また忘れもしませんでした。26:14 私は喪のときに、それを食べず、また汚れているときに、そのいくらかをも取り出しませんでした。またそのいくらかでも死人に供えたこともありません。私は、私の神、主の御声に聞き従い、すべてあなたが私に命じられたとおりにいたしました。

26:15 あなたの聖なる住まいの天から見おろして、御民イスラエルとこの地を祝福してください。これは、私たちの先祖に誓われたとおりに私たちに下さった地、乳と蜜の流れる地です。」

26:16 あなたの神、主は、きょう、これらのおきてと定めとを行なうように、あなたに命じておられる。あなたは心を尽くし、精神を尽くして、それを守り行なおうとしている。

26:17 きょう、あなたは、主が、あなたの神であり、あなたは、主の道に歩み、主のおきてと、命令と、定めとを守り、御声に聞き従うと断言した。

26:18 きょう、主は、こう明言された。あなたに約束したとおりに、あなたは主の宝の民であり、あなたが主のすべての命令を守るなら、

26:19 主は、賛美と名声と栄光とを与えて、あなたを主が造られたすべての国々の上に高くあげる。そして、約束のとおり、あなたは、あなたの神、主の聖なる民となる。

ここにある「第三年目の十分の一」は第二の十分の一と呼ばれるもので、神殿にささげるものと別で、あらゆる人々と楽しむためのものです。特に豊かにはなりづらい人々のためにも楽しむものです。

このように信仰は主の祝福をもたらすものですから、それを大いに喜ぶことは健全なことです。教会の交わりでも大いに喜び楽しむ必要があります。ただしここにあるように、気に入ったメンバーだけでなく、外の人をも仲間にして楽しむべきです。実はその方が、もっと楽しいものです。

そこで祈るように語られています。信仰を守りましたという祈りです。これは主に従う自己像の確立になると思われまふ。あまり馴染みがない人もいるかもしれませんが、このようは祈りもしてみましよう。

そして、時に応じて16節からあるような、主への従順と祝福の一体を思い起こしては、前進してゆきましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

